

12:7 さて、天に戦いが起こって、ミカエルとその御使いたちは竜と戦った。竜とその使いたちも戦ったが、

12:8 勝つことができず、天にはもはや彼らのいる場所がなくなった。

12:9 こうして、その大きな竜、すなわち、古い蛇、悪魔とかサタンとか呼ばれる者、全世界を惑わす者が地に投げ落とされた。また、彼の使いたちも彼とともに投げ落とされた。

12:10 私は、大きな声が天でこう言うのを聞いた。「今や、私たちの神の救いと力と王国と、神のキリストの権威が現れた。私たちの兄弟たちの告発者、昼も夜も私たちの神の御前で訴える者が、投げ落とされたからである。

12:11 兄弟たちは、子羊の血と、自分たちの証しのことばのゆえに竜に打ち勝った。彼らは死に至るまでも自分のいのちを惜しまなかった。

12:12 それゆえ、天とそこに住む者たちよ、喜べ。しかし、地と海はわざわざいだ。悪魔が自分の時が短いことを知って激しく憤り、おまえたちのところへ下ったからだ。」

12:13 竜は、自分が地へ投げ落とされたのを知ると、男の子を産んだ女を追いかけた。

12:14 しかし、女には大きな鷲の翼が二つ与えられた。荒野にある自分の場所に飛んで行って、そこで一時と二時と半時の間、蛇の前から逃れて養われるためであった。

12:15 すると蛇はその口から、女のうしろへ水を川のように吐き出し、彼女を大水で押し流そうとした。

12:16 しかし、地は女を助け、その口を開けて、竜が口から吐き出した川を飲み干した。



12:17 すると竜は女に対して激しく怒り、女の子孫の残りの者、すなわち、神の戒めを守り、イエスの証しを堅く保っている者たちと戦おうとして出て行った。

12:18 そして、竜は海辺の砂の上に立った。

「女」は信仰の群れであると解釈できますから、その場合、天での戦いとはサタンが信仰を滅ぼそうとして攻撃するのだということが分かります。また「男の子」はイエス様またはイエスを信じる信仰の群れであるとするなら、サタンが標的にするのはイエス様に対する信仰です。

具体的には異端的な信仰によってイエス様の救いを歪めたり、薄めたりするでしょう。また信仰者の心に影響を与えて、礼拝や伝道をないがしろにするようにしむけるのです。教会内での競争や不和も策略の一つです。

私たちの信仰は単に自分自身の考えによる判断ではなく、このように天における戦いの勝利なのだ知りましょう。ですから自分自身の個人的な判断を越えたものであること、神の力なのだということです。さらには、もしも誰かを救いに導きたいなら、自分の頑張りだけではなく霊的な戦いにおいて主の勝利が必要なのだと知って、それを求めて祈り、また主の栄光を表してゆきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

